

二 各国權益の接収・管理

15

昭和16年12月11日

東郷外務大臣より
在滿州国梅津大使、在中国日高代理大
使他宛(電報)

日本国内における米英大使館等取扱い状況に

ついて

付記一

昭和十七年一月十七日付、亜米利加局第三課
作成

「在本邦敵國公館及敵國人ニ對スル措置ニ關ス
ル件」

二

昭和十八年十二月、在敵国居留民關係事務局
作成、「外務大臣用議會資料」より抜粋

国内における敵國公館に關する措置

本省 12月11日後9時30分迄

合第二五五五號

在本邦敵國人取扱狀況左ノ通

敵國大公使館員ハ夫々公館内ニ收容セルカ外務省員一名ヲ
各館内ニ常駐セシメ連絡ニ當ラシムルト共ニ日常生活ニ不

便ナカラシムル爲特別ノ考慮ヲ拂ヒ居リ殊ニ九日ニハ内相

ノ命ニヨリ警視總監自ラ米英大使館ヲ訪問シ當方ヨリ八十

日書記官ヲ派遣慰問ニ當ラシメ又長波「ラジオ」ヲ提供ス

ル等ノ措置ヲ講セリ又居留民ノ抑留ハ必要ノ最少限度且男

子ノミニ止メ内地ニ於テ約二百七十名ニ過キス而モ其ノ收

容ニ當リテハ洋式生活可能ナル場所ヲ選ヒ且寢具身廻品ノ

携行ヲ許シ食事暖房醫療等ニ關シテモ充分ニ留意シ居リ被

抑留者ハ一般ニ明朗ナル日常ヲ過シ居レリ

本電宛先 在滿各公館 在支各公館

(付記一)

在本邦敵國公館及敵國人ニ對スル措置ニ關スル件

(昭和十七、一、一七、米三)

大東亞戰爭勃發ト同時ニ在本邦敵國公館及敵國人ニ對シテ

執リタル措置左ノ通り

(一) 敵國公館ニ對シテ執リタル措置

十二月八日開戦ト同時ニ外務省ヨリ書記官一名(屬一名ヲ配ス)警視廳及憲兵隊係官竝ニ遞信省、無線電信關係技師ヨリ成ル一團ヲ在本邦米國大使館、英國大使館、「カナダ」公使館、濠洲公使館及和蘭公使館ニ夫々派遣シ此ノ日以降帝國ト是等諸國トハ戰爭關係ニ入レル旨ヲ告グルト共ニ是等敵國公館ノ機能ハ之ヲ停止セシメ、外部トノ連絡ヲ遮斷スルコトヲ通達セシムル一方引揚ニ到ル迄ハ外交官特權ヲ禮節上認ムベキ旨申入レ、館内ノ短波無電受信機ノ一切ノ引渡ヲ受クルト同時ニ送信裝置ナキヤ否ヤヲ取調べタリ尙我方ニ於イテハ敵國公館ノ外部トノ連絡遮斷ニ伴フ館員ノ生活上ノ諸般ノ不便ヲ出來得ル限り除去スルタメ敵國公館ニ夫々外務省ヨリ連絡員ヲ派駐セシメタリ

其ノ後「メキシコ」、「エジプト」、「ギリシヤ」、「パナマ」、「ベルギー」、「コロンビヤ」、「ヴェネズエラ」、「ニカラガ」ハ相次イデ我國ニ對シ宣戰布告又ハ國交斷絶ヲ通告シ來タレルヲ以テ之ニ應ジ隨次前記ト同様ノ處置ヲ執リタリ

右措置ニ當リテハ出來得ル限り公正妥當ヲ期シタルモ開

戦ノ初期ニ於テハ未ダ利益代表ノ決定モ無ク公館外ニ居住シ居リタル公館員ヲ一率公館内ニ引取ラシメタル關係上部内ノ秩序、統制モ全カラザリシ一方之ガ警備監視ノ任ニ當ル警察當局ニ於テモ實際取扱ノ細目ニ關シ準備完了シ居ラザリシ爲多少困難ヲ感ジタルモ時日ノ經過ト共ニ警備監視狀況及食料燃料補給狀態等モ改善ヲ見正常ニ復シタリ

然レドモ戰爭勃發後一ヶ月ヲ經タル今日トナリ敵國公館員ノ氣分モ落着クト共ニ彼等ノ日常生活ニ倦怠ヲ感ジ始メ各種ノ希望ヲ申出デ警備監視措置ノ緩和方ヲ要求シ來タリツツアルヲ以ツテ外務省側トシテハ事情ノ許ス限り彼等ノ要望ニ副フ様内務當局ト折衝ヲ行ヒツツアリ

(二) 在本邦敵國人ニ對スル措置

大東亞戰爭勃發ニ先チ豫テ關係省トノ間ニ協議ヲ遂ゲ置キタル敵國人取扱措置要綱ニ基キ大體ニ於テ十八歳以上四十八歳兵役適齡ニアル敵國男子ヲ特定ノ個所ニ集合收容セリ

日本内地ニ於ケル收容人員ハ英國人一七〇名米國人八七名「オランダ」人其ノ他一三名合計二七〇名ニシテ東京

府ニ於テハ田園調布所在「スミレ」女學院ニ三十五名ヲ
神奈川縣ニアリテハ横濱「ヨット」俱樂部及根岸競馬場
ニ約七〇名ヲ夫々收容セルガ右ハ何レモ保護的措置ナル
ヲ以テ收容者ノ日常生活ニ對スル不便及困難ハ出來得ル
限り之ヲ輕減セシムル見地ヨリ外部ヨリノ食料品及衣服
類ノ差入ヲ許ス外家族トノ面會ヲモ之ヲ許スコトトナリ
既ニ之ヲ實施シツツアル個所モアリ

收容者ノ健康狀態ニ關シテハ特ニ注意ヲ拂ヒ時々囑託醫
ニ於テ健康診斷ヲ行フ外病人アリタル場合ニハ普通病院
ニ入院施療セシムルノ措置ヲ執リ萬遺憾ナキヲ期シツツ
アリ

敵國公館及敵國收容所ヲ通ジ内地新聞ノ閱讀ヲ自由ナラ
シムルト共ニ長波「ラジオ」受信器ヲ貸與シ之ガ聽取ヲ
許シツツアリ

尙「パン」、「バター」、卵、肉類、重油(暖房裝置用)石炭
ノ配給ハ目下一般國民ニ對シテハ極メテ制限セラレツツ
アルニ拘ハラズ彼等ノ爲メニ出來得ル限り之ガ供給ノ圓
滑ヲ計ルベク斡旋努力シツツアリ

又診療ノタメノ醫師ノ招聘及已ムヲ得ザル外出等ハ一定

條件ノ下ニ之ヲ許可シツツアリ

(付記二)

帝國内ニ於ケル敵國公館ニ關スル措置

一、公館員ニ對スル處遇

宣戰又ハ斷交ノ事實確認ノ上大公使館領事館ノ機能ヲ停
止シ在京公館ニハ本省ヨリ省員ヲ派シ地方ニ於テハ地方
官憲ヨリ當該公館長又ハ其代理者ニ對シ口頭ヲ以テ之ヲ
通告シ警察官憲兵及通信院官憲ニヨリ外部トノ連絡遮斷
ノ措置ヲ講シ以後館員歸國ニ至ル迄警察官憲ニヨリ監視
保護ヲ爲ス其處遇ハ外交官ニ對シテハ國際法上不可侵ヲ
認メ暗號電報ノ發電短波「ラジオ」ノ聽取ハ之ヲ禁スル
モ本邦ニ於テ發行スル新聞雜誌ノ購讀長波「ラジオ」ノ
聽取ハ之ヲ許可シ發信及本國政府ヘノ平文電報ハ檢閲ノ
上之ヲ許可シタリ大公使館ニハ本省ヨリ連絡員ヲ派シ連
絡ノ圓滑ヲ計レリ

領事館員ニ對シテハ大公使館員ニ準シ監視保護ヲ爲シ日
常生活上ノ便宜ヲ供與シタリ

敵國及斷交國ノ公館員ニ關スル事項ハ開戰當初ハ調査部

第一課之ヲ取扱ヒ昭和十七年一月十四日ヨリ亞米利加局第三課之ヲ所管シ昭和十七年十月一日同課廢止ト共ニ政務局ニ於テ之ヲ所管スルコトナレリ

二、公館記録文書、建物及家財

敵國及斷交國公館ノ記録文書建物及家財ノ引繼ハ當該公館代表者ト利益保護國代表トノ間ニ直接之ヲ行ヒ其引繼目錄ヲ我方ニ提出セシム又我方ニ於テ現ニ保管シ居ルモノハ我方代表者ト利益保護國代表トノ間ニ行ヒ公館代表者カ現地ニ在ル場合其ノ立會ヲ爲サシム利益保護國代表ハ建物及財産管理ノ爲豫メ我方ノ諒解ヲ得タル上管理人ヲ當該建物内ニ居住セシメ又ハ通勤セシメ得ヘク又管理人ヲ置カスシテ閉鎖封印ヲ爲シ得ルモノトセリ

三、公館建物ノ徵用問題

昭和十七年六月高裁ヲ經テ敵國又ハ斷交國ノ國有財産ニ屬シ又ハ帝國ト特殊ノ合意ニヨリ使用シ居リタル公館建物及土地ハ報復ノ必要アル場合ヲ除キ之ヲ沒收若ハ強制買收ヲ行ハス又之カ使用ハ天災地變又ハ戰禍ノ結果緊急ノ必要トナリタル場合ヲ除キ爲サルコトニ方針ヲ決定シ同年七月四日關係省係官會議ヲ開催シタルカ大藏省及

陸軍省ハ使用セサルヲ原則トスヘシトノ外務省案ニ全面的ニ反對シ原則トシテ使用スヘシトノ意見ニテ一致ヲ見ス本省ニ於テハ七月十三日事務連絡委員會幹事會ヲ開キ再檢討ヲ加ヘ本省案堅持ノ決定ヲ見タルモ其後關係省トノ協議會モ無ク其儘推移シテ本日ニ至レリ本件ハ當事務室開設前ノ狀況ニシテ現在之ヲ所管シ居ラス

四、公館員私有財産ノ處分

昭和十六年十二月十九日本省次官ヨリ大藏次官ニ對シ敵國外交機關及領事機關ニ屬スル動産及不動産竝ニ敵國外交官及領事官ノ私有財産ハ敵産管理法ノ適用外トスルコトヲ照會セルニ對シ同二十九日附ヲ以テ敵國側ノ同様取扱ヲ條件トシテ同意ノ旨回答アリ之等公館員ノ私有財産賣却希望者ニ對シ之ヲ許可シ其賣却代金ヲ本人口座ノ預金ト爲シ之カ引出シニハ許可ヲ求メシムルコトトナシタルカ若干ノ者ハ右ノ措置ニ應シ賣却ヲ爲セリ本件モ亦當事務室開設以來當室ニ於テ所管セス

16 昭和16年12月19日

西(春彦)外務次官より
谷口(恒二)大藏次官宛

敵国公館の所有財産は敵産管理法の適用外と

すべきとの外務省見解について

付記一 昭和十六年十二月二十三日公布

「敵産管理法」

二 昭和十七年十二月二十四日付、政務局第七課作成

「中南米諸國適用除外ヲ得策トスル理由」

儀普通第一一二三號

昭和十六年十二月十九日

外務次官 西 春彦

大藏次官 谷口 恒二殿

敵國外交機關領事機關並ニ外交官及領事官ニ

屬スル財産取扱ニ關スル件

今般本邦ニ於テ敵産管理法施行セラルルコトト相成リタル
處敵國外交機關及領事機關ニ屬スル動産及不動産並ニ敵國
外交官及領事官ノ私有財産ハ之ヲ本法ノ適用外トスルコト
國際法上ヨリ見テ當然ト認メラルル次第ナルニ付テハ貴方
ニ於テ素ヨリ右御諒知ノコトト存スルモ爲念此段申進ス

(付記一)

敵産管理法

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ

之ヲ管理セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ム
ル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又
ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指
定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコト
ヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債
務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ
基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債
權ノ目的物タル金錢又ハ物ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルト
キハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者
ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之
ニ對スル出資ヲ含ム)ガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレ

タルトキハ其ノ財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産

二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資

三 本邦證券

四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ

五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵産管理委員會ヲ置ク

敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ

時ニ遡リテ之ヲ無効トス

(付記二)

中南米諸國適用除外ヲ得策トスル理由

(政七 昭一七、二二、二四)

中南米諸國ノ參戰國乃至斷交國ニ對シ敵產管理法ノ指定國
タラシメサルヲ得策トスル理由左ノ如シ

(一) 中南米諸國ノ參戰國乃至斷交國ニ在留スル邦人ハ二十四
萬ノ多キヲ算スルニ反シ右諸國ノ國民ニシテ本邦竝ニ皇
軍占領地ニ在住スル中南米人ハ極メテ少數ナルコト

(二) 中南米諸國ノ參戰國乃至斷交國ニ在ル邦人資産總額ハ約
三億圓(伯刺西爾一億圓其他一億圓)ニ達シ居ルニ反シ右
諸國ノ在本邦資産ハ殆ント皆無ナルコト

(三) 中南米諸國ノ中參戰國ハ中米十ヶ國ナルカ其ノ中墨西哥
ニハ邦人四千、玖瑪ニハ邦人六百居留シ其他ノ八ヶ國ニ
ハ邦人在留セス邦人資産ノ取扱ニ關シテモ墨西哥ニテ在
首府本邦商社數社カ墨西哥ノ敵產管理法ヲ適用セラレ居
ルノミニシテ邦人ノ大部分ハ農業乃至商業ヲ繼續シツツ
アリ玖瑪在留民ハ敵產管理法ヲ施行セラレ居ラス

四南米ノ中亞智兩國ヲ除ク八ヶ國ノ斷交國ニテハ邦人ハ主
トシテ農業ニ従事シツツアリ殊ニ伯刺西爾ノ如キハ邦人
二十萬ノ九割以上カ農業者ナルヲ以テ日常生活ニハ支障
ナク生活シツツアル現狀ナリ

以上ニ依ツテ觀ルニ若シ我方カ右諸國ヲ敵產管理法ノ指定
國タラシムルナラハ(イ)我方ニテ利得スル點ハ毫モ無キニ反
シ(ロ)先方ハ其ノ報復手段トシテ在留邦人二十四萬ノ生活ヲ
壓迫スルニ至ルヘク其ノ資産約三億圓モ沒收セラルルニ至
ルヘシ

仍テ我方トシテハ中南米諸國ニ對シテハ右理由ニ由リ特ニ
政治的考慮ヲ加ヘ敵產管理法ノ指定國タラシメサル方賢明
ナリ



17 昭和16年12月29日 谷口大藏次官より
西外務次官宛

敵国公館關係財産の敵產管理法適用除外に關
する大藏省回答

藏爲總第一九七六九號

昭和十六年十二月二十九日

外務次官 西 春彦殿

大藏次官 谷口 恒二

敵國外交機關領事機關並ニ外交官及領事官

ニ屬スル財産取扱ニ關スル件

昭和十六年十二月十九日附貴信ヲ以テ御通知相成候首題ノ件ニ關シテハ當方トシテハ先方ニ於テ貴見ト同様ノ取扱ヲ爲スコトヲ條件トシテ同意スルコトト致度尙本件ニ關スルノミナラズ本邦側財産ニ對スル米英ノ取扱振リニ關スル情報ハ其ノ都度速ニ當方ニ御連絡相煩度此段及回答候也

~~~~~

18 昭和17年1月2日

在上海堀内(干城)総領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

### 中国における敵産の処理方針につき請訓

上海 1月2日後発  
本省 1月2日夜着

第三號(外機密、館長符號扱)

一、本邦ニ於テハ既ニ敵産管理法並ニ施行令等公布ヲ見タル處當地ニ於テモ押收敵産ノ處分ニ關シ何等軍命令等ニ依ル管理規定ノ制定並ニ管理機構設立ヲ必要トシ居リ更ニ

敵性ノ有無ヲ審判スル機構ノ整備ノ必要ニ迫ラレ居リ租界對策機構ニ於テ審議中ナルカ左記諸點御含ノ上至急中央ノ御方針ヲ御回示相成度シ

ニ、(イ)敵産(英米等)ノ處理ハ(A)本邦(B)支那占領地(C)佛印「タイ」及(D)敵國領土等ニ依リ異ニスヘキモ支那ニ於テハ國民政府ヲシテ取扱ハシメサル方針ノ下ニ引續キ我方處理シ差支ナキヤ

(ロ)我方處理ストセハ敵産管理法令ヲ支那ニ適用スルヤ軍令又ハ軍規定ニ依リ行フヤ(一應後者ヲ考慮シ居レルカ外務側カ指導的地位ヲ保ツ爲ニハ前者ヲ便利トス)

(ハ)英米系敵産ノ取扱ハ重慶敵産ト判然區別スルヲ理論上及對支政策上必要ト認メ我方機構モ兩者ヲ明確ニ分チ置クヘキコト(當地ニ關スル限り此ノ點大方異論ナキモ唯租界内敵産ハ重慶敵産ヲ含メ新機構ヲシテ處理セシメタシトノ強キ意見アリ)

(ニ)中央ヨリ早キニ及ヒテ指示ナキ限り支那各地ニ於テ軍ノ處理要領カ區々トナル惧アルコト

(ホ)尤モ全支那ヲ劃一的ニ規定スルコトハ相當考慮ノ餘地アリ上海租界ノ如キハ英米系敵産ノ件數多ク且重要ニ

シテ一括管理ヲ急ク時ハ煩ニ堪ヘス又經濟界ヲ不要ニ  
硬塞スルコトトナルハ恰モ香港ノ如シ

(ハ)當地ニ於テハ進駐ニ當リ押收管理セルハ軍事上必要ナ  
ル敵産ニ限リタルカ其ノ後逐次其ノ他ノ企業不動産等  
ニモ管理ヲ及ホサントノ意見擡頭シツツアリ偶々本邦  
ニ於テ敵産管理法令ノ制定ヲ見且右法令カ外見上一切  
ノ敵産ヲ管理スル如クナル爲當地ニ於テモ一切ノ敵國  
私有財産(動産ヲ含ム)迄押フル規定ヲ制定セントスル  
空氣ヲ醸成セリ右ニ對シ當方ハ軍事上必要ナラサル敵  
國私有財産ハ報復措置ノ場合ヲ除キ我方カ管理處分ス  
ル所ナラサル旨ヲ説明シ居ル次第ナリ依テ中央法令ノ  
趣旨及運用方針竝ニ占領地ニ於ケル敵産ニ對スル我方  
干與ノ限界ヲ明確ナラシメラレタシ

南大、漢口、北大、天津、青島、廣東(外信)へ轉電セリ

19

昭和17年1月9日 在仏印芳沢(謙吉)大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

## 仏印における敵産処理について

### 第三九號

本使發上海、「タイ」宛電報

#### 合第一號

佛印ニ於ケル敵産ノ處理ハ「タイ」國竝ニ上海共同及佛租  
界ニ於ケル敵産ノ處理振リト步調ヲ合ハスルノ要アル處佛  
印ニ於テハ開戰當初敵性銀行、石油會社等目星シキ敵産ヲ  
軍側ニ於テ接收シ引續キ管理中ナルカ一方佛印側ニ於テモ  
英、米、蘭財産差押ヘニ關スル總督令ヲ發布シ敵産ノ管理  
ヲ開始セリ依ツテ當方トシテハ共同防衛ノ見地ニ基キ軍事  
上ノ用ニ供シ得ベキ敵産ニ付日本軍ノ利用ヲ確保スルト共  
ニ自餘ノ敵産ニ付テハ右總督令ニ依リ佛印側ヲシテ管理セ  
シメ其ノ散逸、流失其ノ他敵側ニ依リ利用ヲ防止スルノ責  
ニ任セシムルコトトシタキ意嚮ナリ尤モ問題トナルハ銀行  
ニシテ目下軍側差押ヘ中ノ銀行ハ香上、「チャータード」、  
東亞ノ三行ナルカ貴方ニ於ケル敵産ノ處理振リ當方參考迄  
御回電アリタシ

大臣へ轉電セリ

ハノイ 1月9日後発

本省 1月10日前着

20 昭和17年1月12日

在タイ坪上(貞二)大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

タイにおける敵産処理進捗状況について

バンコク 1月12日後発

本省 1月13日夜着

合第四號

本使發西貢宛電報

第二號

貴電合第一號ニ關シ

「タイ」國ニ於テハ開戦ノ當初銀行、船舶埠頭倉庫等ノ敵産ヲ軍側ニ於テ差押ヘタルカ其ノ後軍事上必要ナルモノヲ除キ之カ警備ヲ逐次「タイ」側ニ委譲シ來タリ「タイ」側ハ敵産管理法ヲ公布シ敵産管理ノ準備ヲ進メツツアリ(一)銀行ニ付テハ香上「チャータード」「マーカントイル」ノ英國系三銀行及廣東、四海通ノ二華僑銀行ヲ差押ヘタルカ其ノ警備ハ既ニ「タイ」側ニ移シ居リ英國系銀行ニ關シテハ將來營業ヲ停止シ日「タイ」協力シテ之カ整理清算ニ當ル方針ノ下ニ之カ管理ヲ「タイ」側ニ移スコトナリ近ク實行ノ豫定ナリ廣東銀行ハ準敵産トシテ整理セシメ四海通ハ

日「タイ」側指導ノ下ニ業務ヲ繼續セシムル方針ノ下ニ近ク「タイ」側ニ管理ヲ移ス豫定ナリ(二)「タイインダストリー」會社石鹼工場ハ既ニ「タイ」側ニ移管近ク操業再開ノ豫定(三)「バンコックドック」及「ボンベイバーコー」製材所ハ軍事上ノ必要ニ基キ軍ニ於テ管理中(四)錫鑛殘存ノ他ノ敵産ニシテ軍管理中ノモノノ處置ニ付テハ目下研究中(五)船舶及埠頭ハ軍事上ノ必要ニ基キ軍管理中(六)倉庫ハ軍事上ノ必要ニ基キ「ボルネオ」「アングロト」及「EAC」倉庫ノ他ハ「タイ」側ノ管理ニ移セリ尙「タイ」國營所造棧橋及倉庫ハ日本軍ニ於テ全面的ニ使用中  
大臣、上海へ轉電セリ

21 昭和17年1月20日 大本營政府連絡會議決定

「占領地軍政實施ニ伴フ第三國權益處理要綱」

付記一 昭和十七年一月二十四日付、山田(久就)東亜局

第二課長作成

「南方占領地軍政實施ニ伴フ第三國權益處理要

綱決定經緯」

## 二 作成日不明、南洋局作成

「南方占領地ニ於ケル第三國官憲ノ取扱ニ關スル件」

### ● 占領地軍政實施ニ伴フ第三國權益處理要綱

軍政施行地域ニ於ケル第三國關係權益處理ノ準據ヲ概ネ左ノ如ク定ム

本施策遂行ニ當リテハ特ニ戰爭指導ニ資スル如ク情勢ノ推移ト睨ミ合セ寬嚴適正宜シキヲ期スルモノトス

### 甲 第三國官憲ノ取扱

一、本地域ニ於テハ第三國官憲ニ官憲トシテノ機能ヲ認メス

二、第三國官憲ノ内名譽領事以外ノモノニ對シテハ原則トシテ立退ヲ要求スルモ特ニ引續キ滯留ヲ希望スルモノニ對シテハ其ノ本國ノ對日態度ヲ斟酌シ然ルヘキ名目ヲ附シテ許否ヲ決スルモノトス

立退迄ノ間又ハ引續キ滯留ノ間從來ノ特權ハ之ヲ認メス

但シ其ノ身體、公文書、公私有財産ニ對シテハ從來ノ特權ニ準シ保護ヲ加フルモノトス

三、前項第三國官憲ノ立退ニ付テハ努メテ便宜ヲ供與スルモノトシ其ノ方法ニ關シテハ必要ニ應シ其ノ都度之ヲ指示ス

四、名譽領事ニ對シテハ其ノ保管スル第三國ノ公文書及公私有財産ニ付原則トシテ從來ト同様ノ取扱ヲナスノ外何等特權ヲ認メス

其ノ國籍ヲ有スル一般國人ト同様ノ取扱ヲナスモノトス

五、本地域ニ於テハ差當リ第三國官憲ノ入國又ハ新ナル選任ヲ認メス

六、第三國ノ殘留官有財産ハ占領軍之ヲ保管ス

七、前掲以外ノ事項ニ付テハ(乙)ニ準シ取扱フモノトス

### (乙) 第三國人ノ取扱

一、占領地ニ現住スル第三國人ノ繼續滯在ハ差支ナキモ新渡航ハ差當リ之ヲ認メス

二、第三國人ノ現存權益ハ軍事上差支ナキ限り之レヲ尊重スルモ爾後ノ擴張、新設竝ニ未着手、未經營ノ權益ハ差當リ之ヲ認メス

資源及施設ノ破壊等利敵行爲ヲ爲セル第三國人ノ權益

ハ一切之ヲ認メス

三、同盟國及戰爭指導上利用スルヲ適當トスル諸國(亞、伯、智、西、葡、瑞西等)ノ國人及其權益ノ取扱ハ軍事上差支ナキ限り努メテ好意的ニ處理スルモノトス

四、敵國人ノ權益ノ第三國人ヘノ移轉ハ十二月八日以後ニ爲サレタルモノ及十二月八日以前ト雖モ惡意ヲ以テ爲サレタルモノハ之ヲ認メス

五、第三國人ノ暗號使用及通信機關ノ設置ヲ禁ス

備考 1. 第三國トハ同盟國防共協定參加國及其他ノ中

立國ヲ謂フ

2. 第三國官憲トハ領事官其他一切ノ文武官憲ヲ

含ムモノトス

3. 第三國人トハ第三國籍民及保護民ヲ含ムモノ

トス

4. 敵性ナキ宗教機關ニ對スル取扱ハ(乙)ノニ準

ス

5. 甲各項ノ趣旨ハ外務大臣ヨリ在京關係國使臣ニ適宜申入レノ上其ノ旨ヲ現地ニ於テ軍司令官ヨリ第三國官憲ニ可然通告スルモノトス

6. 甲ノニノ許否ハ其ノ都度軍中央ヨリ之ヲ指示ス

7. 軍政解除後ノ措置ニ付テハ別ニ定ム

(欄外記入一)

情況ニ依リ變化スルコトアリ

(欄外記入二)

二月六日中央申入

(付記一)

南方占領地軍政實施ニ伴フ第三國權益處理要綱

決定經緯

昭一七、一、二四 山田記

一、南方占領地ニ於ケル第三國官憲及第三國人ノ取扱振ニ關シ方針指示方現地軍ヨリ累次電報アリタル趣ニテ軍側ニ於テ一案作成南洋局事務當局トノ間ニ話合ノ結果大体意見纏マリ軍ヨリ現地ニ打電セラルルコトナリ右ノ次第事後報告ノ形式ニテ省内連絡委員會ニ報告アリ連絡委員會ニ於テハ左ノ如キ意見開陳アリタリ

(1)東二長ヨリ原案ニ依レハ第三國官憲立退ノ要求ハ現地ニ於テ行ハレルコトナリ居ルモ事外交上機微ナル關係アリ相手國ニ依リ要求要領モ差異アルヘク且獨逸占領地ニ於ケル先例ニ徴スルモ立退ノ要求ハ中央ニ於テ外務省ヨリ之ヲ爲スコト必要ナリ

(2)米二長ヨリ獨逸占領地ニ於ケル撤退要求ノ際南米諸國ニ相當ノ衝撃ヲ與ヘタル經緯ニモ徴シ少クトモ「リオ」會議後ニ於テ之ヲ實施スルコト然ルヘシ

(3)前記理由ニ依リ軍側ノ再考ヲ促ス様南洋二長ヨリ連絡スルコトトセリ

二、本件ノ内容及前記連絡委員會ノ經過ヲ東亞局長ニ報告セル處局長ハ外務、領事官憲ノ撤退要求自体ニ對シ異見ヲ有セラレ幹部會ニ於テ再考セラルルコトナリ右ノ結果本案ノ如ク連絡會議ノ決定ヲ見ルニ至レル次第ナリ

## (付記二)

南方占領地ニ於ケル第三國官憲ノ取扱ニ關スル件  
南洋局長ヨリ在京佛國、「アルゼンチン」、「タイ」各大使館參事官、瑞西、西班牙、瑞典、丁抹、「フィンランド」

各公使、諾威公使館書記官(以上二月六日)及土耳其大使館參事官、葡萄牙公使(以上二月七日)ノ來省ヲ求メ別紙口上書ヲ手交セリ 會談要領左ノ通

## 一、佛 國

佛參事官―占領地域ノ内現在佛國領事官ノ駐在シ居ルハ「マニラ」ト香港ナルガ在外佛國人ノ結婚ハ佛國領事館ニ於テ之ヲ行フコトナリ居リ領事官ガ立退カシメラルルコトハ此點ヨリ云フモ困ツタ問題ニシテ早速本國政府ニ報告セザルベカラズ又立退クニシテモ準備ヲ要スルコト故暫クノ猶豫ヲ得度シ

## 二、「タイ」

「タイ」參事官―各國ニ對シ同様申入レラルル次第ナリ  
ヤ、獨伊ニ對シテハ如何

南洋局長―關係國ノ凡テニ對シ一律同文ノ通告ヲ發スルコト勿論ナルガ獨伊ノ領事官ハ現在是等ノ地域ニ駐在シ居ラザルヲ以テ獨伊ニ對シテハ通告ノ必要ナキ次第ナリ

一、瑞 西

瑞西公使―瑞西ハ米國ノ利益代表タル關係上「マニラ」

ノ領事官ヲ必要トス

南洋局長―利益代表ニ關スル事項ハ中央ニ於テ折衝セ

ラルベキコトナリ

瑞西公使―序デ乍ラ、自分米國ノ利益代表ヲ引受ケ米

國大使館ニモ出入スル爲カ「スパイ」視セ

ラレ自分宛ノ郵便物殊ニ公文書ノ如キモ今

猶開封セラレ居レリ就デハ右様ノコトナキ

様御配慮ヲ得度シ

南洋局長―調査方取計フベシ

瑞西公使―尙瑞西ハ赤十字ノ代表ナルガ條約ニ基キ占

領地ニ赤十字醫療班ヲ派遣シ又ハ醫療救恤

ノ金品ヲ送ルコトハ差支ヘ無キモノト自分

ハ推測スル

一、「アルゼンチン」

「アルゼンチン」參事官―「マニラ」ノ領事ハ既ニ罷免

シ、香港ノ領事ハ大連ヘ移ス

コトトナリ居レルガ「アルゼ

一、芬 蘭

南洋局長―適當ノ時機ニハ行ケルモノト思フ

ンチン」ハ英國ノ利益代表タル關係上香港ノ英國總督等ノ面倒ハ最後迄見テ遣ル必要アリ其ノ爲ニ自分ハ一度香港ヘ行キ度キ處右ハ可能ナリヤ

芬蘭公使―芬蘭トシテハ名譽領事ノミナレバ餘リ關係

無キモ本件措置ハ國際法ノ認ムル所ニ非ズ

他ノ大公使ハ此ノ通告ヲ默ツテ受領セリヤ

南洋局長―默ツテ受領セリ。是等領事官ハ前ノ政府ノ

認可ヲ得テ駐在セルモノニシテ今後ハ日本

軍ガ承認セザレバ當然駐在シ得ザル筈ナリ

芬蘭公使―在留民保護ノ爲駐在ノ必要アリ

南洋局長―右ハ抗議ナリヤ。若シ抗議ナラバ文書ヲ以

テセラレ度シ

芬蘭公使―抗議ニ非ズ。「オブザヴェーション」ナリ

南洋局長―獨逸モ占領地ニ於テ同様ノ處置ヲ取リタル

ニ非ズヤ

芬蘭公使―獨逸ハ外交官ノ引揚ゲヲ要求シタルモ領事官ノ駐在ハ認メ居レリ

南洋局長―斯カル筈ナシ。現ニ我國ノ領事官ハ凡テ引揚ゲヲ求メラレタリ

芬蘭公使―當方ノ領事官ハ現ニ駐在シ居レリ

一体日本側ハ何處ヘ又如何ナル方法ニ依リ

第三國領事官ヲ引揚ゲシメラルル積リナリ  
ヤ 敵國外交官交換ノ際同ジ船ニ便乗セシ  
メラルルヤ

南洋局長―未タ定マリ居ラズ、或ハ別ノ船ヲ仕立ツル  
コトトナルヤモ知レズ

芬蘭公使―濠洲ニハ芬蘭領事駐在シ居ル處萬一日本ガ  
濠洲ヲ占領セラルルガ如キ場合ニハ領事ヲ  
如何ニスベキヤ

南洋局長―日本ヘデモ引揚ゲシメラルルノ外無カルベ  
シ

## 一、西班牙

南洋局長―凡テノ關係國ニ對シ一樣ニ本件通告ヲ發ス  
ル次第ナルガ若シ西班牙ニ於テ在「マニラ」

總領事ノ居殘リヲ必要トセラルル事由アラ  
バ日西友好關係ニ鑑ミ特ニ好意的ニ考慮ス  
ベシ但シ其ノ場合ニ於テモ從來ノ資格、特  
權、待遇ハ之ヲ與ヘ得ズ現地軍ハ總領事館  
ノ國旗及門標ヲ卸サシメ唯事實上事務ヲ執  
ルコトヲ默認スルコトトナルベシ尤モ右ハ  
西班牙ニ對スル特別ノ取計ヒナルニ依リ他  
國ニハ絶對洩ラサレザル様致度シ

西班牙公使―總領事館ノ國旗ヲ卸スガ如キコトハ居留民  
ガ治マラザルベク、本件ハ困ツタ問題ナリ  
本國政府ニ報告スル前ニ何トカ名案ヲ案出  
シ度キ故月曜日迄待タレ度シ

## 一、瑞典

瑞典公使―此ノ通告ハ凡テノ國ニ對シテナサレタリヤ、  
獨伊ニ對シテモ同様ナリヤ

南洋局長―關係國ノ凡テニ對シ通告セリ獨伊ハ現在是  
等ノ地域ニ領事ヲ駐在セシメ居ラザルニ依  
リ通告ノ必要無キ次第ナリ

瑞典公使―先般香港ニ於テ瑞典船ガ沈メラレ、船員數

一、丁 抹

十名が目下香港ニ滞留シ居リ、其ノ滞在費ハ現在貴省及在廣東日本總領事ヲ經テ在香港瑞典領事ニ送金シ居ル事情アルニ付テハ此ノ問題ガ片附ク迄右領事ノ滞留ヲ認メラレ度シ

丁 抹公使―丁抹トシテハ香港ニ領事官ヲ有シ居ル處日本側ハ是等第三國領事官ヲ何處ヘ引揚ゲシメラルル積リナリヤ

南洋局長―未ダ定マリ居ラザルモ、一應日本ヘ引揚ゲシメ其ノ後適宜本國ヘ歸還セシムルコトモ一法ナリ

丁 抹公使―是等領事官ガ現地ニ居ルモ何等害無ク引揚ゲテ求メラルル理由無シト思フ

南洋局長―專任ノ領事官ハ引揚ゲテ本國ニ歸スナリ他ニ轉任セシメラルル方ガ第三國トシテモ好都合ナラズヤ

一、諾 威

諾威書記官―諾威トシテハ專任ノ領事官ハ香港ニ駐在セ

一、葡萄牙

南洋局長―未ダ定マリ居ラザルモ一應日本ヘ引揚ゲシメラルルモ一法ナルベシ

諾威書記官―上海ヘデモ引揚ゲシムル様早速本國政府ニ請訓ノ上何分ノ回答ヲナスベシ

葡萄牙公使―葡萄牙ハ一年程前ニ香港ノ領事ヲ引揚ゲ後任ハ任命セズ、或ル商店ノ雇人タル一葡萄牙人ニ領事館事務ヲ囑託シ居レリ葡萄牙ニ於テハ同人ヲ名譽副領事トナシ居ルモ從來香港政廳ハ之ヲ單ニ consular agent トシテ取扱ヒ居リ其ノ「ステイタス」判然タラズ右ノ如キ事情ナルヲ以テ引揚ゲシムル迄モナク早速其ノ機能ヲ終了セシムベク、問題ハ簡單ナリ他ノ地域ニハ領事官ノ駐在無シ

一、土耳其

土耳其公使―土耳其トシテハ現在ハ是等ノ地域ニ領事ノ

駐在スルモノ無く上海ニ居ルノミナリ

22 昭和17年2月17日 大本營政府連絡會議決定

「占領地ニ於テ敵側ニ押收セラレアリシ樞軸

國(人)ノ權益處理ノ件」

● 占領地ニ於テ敵側ニ押收セラレアリシ樞軸國(人)

ノ權益處理ノ件

占領地ニ於ケル樞軸國(人)ノ權益ノ中敵側ニ押收セラレアリシモノノ處理ニ就キテハ左記ノ如ク措置ス

記

一、是等權益ハ我軍一應之ヲ押收ス

二、樞軸側ヨリ返還セラレ度旨ノ申出アリタル場合ハ左ノ如ク措置ス

(1)「占領地ニ於テ敵國ニ依リ沒收其他ノ處分ヲ受ケタル

權益ニシテ敵國ノ所有ニ歸シアリタルコト明カナルモ

ノハ我方ニ於テ當然之ヲ沒收シ得ヘキノミナラス敵國ノ權力内ニ置カレ居リタル一切ノモノハ戰爭ノ繼續ス

ル限り我方ニ於テ引續キ之ヲ押收シ得ヘキモノナリ然レ共申越ノ件ニ關シテハ盟邦ニ對スル好誼トシテ占領地施策ニ支障ナキ限り友好的ニ考慮スヘキ」旨ヲ以テ應酬ス

(2)重要ナル資源、施設、工場、通信運輸機關等軍政施行ニ重要ナル影響ヲ及スヘキ權益ハ差當リ樞軸側ニ返還スル事ナク我方ニ於テ利用ス

(3)前號以外ノ重要ナラサル權益ハ其ノ權利關係ニ付確實ナル證據資料アルモノニ限り適宜之ヲ樞軸側ニ返還ス  
(4)私人ノ生活維持ニ必要ナル財産ニ對シテハ努メテ好意的ニ措置スルモノトシ前記(2)ノ場合ニ於テモ生活維持ノ爲必要アラハ適當手段ヲ講スルモノトス

(5)返還ニ方リテハ豫メ中央ニ連絡ノ上其ノ指示ニヨリ之ヲ行フモノトス

〔註〕

一、樞軸國(人)ニハ獨伊ノ外三國同盟加入國及「タイ」

國(人)ヲ含ム

二、樞軸國人ノ占領地渡航ハ占領地ニ於ケル第三國人ノ取扱ニ關スル昭和十七年一月十九日ノ連絡會議決定

ニ基キ差當リ之ヲ認メサルコトナリ居レリ

23 昭和17年3月3日

東郷外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

占領地域における枢軸国人の権益処理方針決定につき通報

本省 3月3日後8時10分発

第一六九號(館長符號扱)

皇軍ノ占領地區ニ於ケル樞軸國(人)ノ權益處理ノ問題ハ將來頻繁ニ起ル可ク予想セラルル處既ニ獨側ヨリハ在香港及昭南島ノ權益ニ關シ申出テアリ獨側ハ英官憲ニ依リ強制處分ヲ受ケタル同國人權益ハ皇軍ノ占領ニ依リ當然解放セラルルカ如キ考ヘヲ有シ居ルヤニ見受ケラルル處右見解ハ法律的ニモ疑義アルノミナラス之等問題ノ處理ニ際シテハ作戰上ノ必要ヲ考慮セサル可カラサルコトハ當然ナルニ付過般政府大本營連絡會議ニ於テ左ノ通本件ニ對スル方針ヲ決定シ既ニ夫々現地軍ニ對シ通達セリ

(以下省略)  
貴使御含ミ迄

編注 本書第22文書。なお、本電は本省よりタイへ、独国經由で伊国へと転電された。

24

昭和17年9月28日 大本營政府連絡會議決定

「帝國軍ノ作戰地域内ニ於ケル敵國及敵國人財産ノ處理運營ニ關スル件」

付記 昭和十七年九月二十八日、大本營政府連絡會議用資料

右説明書

●帝國軍ノ作戰地域内ニ於ケル敵國及敵國人財産ノ處理運營ニ關スル件

第一方 針

帝國軍ノ作戰地域内ニ於ケル敵國及敵國人ノ財産(以下敵産ト稱ス)ニシテ必要アルモノハ帝國ノ戦力培養並ニ敵ノ戦後ノ復活封止ノ爲之ヲ抜本的ニ處理シ帝國ニ歸屬セシムルト共ニ適切ナル經營形態ヲ整ヘ以テ國家ノ總力ヲ益々本戦争完遂ノ一途ニ集注發揮セシムルト共ニ敵ノ措置ニ依リ帝國側ノ蒙リタル損害補償ノ擔保ヲ保全セン

コトヲ期ス

泰、佛印竝ニ支那等ニ於ケルモノノ取扱ニ關シテハ夫々特別ノ政治的考慮ヲ拂フモノトス

## 第二 要 領

一、作戰地域内ニ於ケル敵産ニシテ必要アルモノハ之ヲ押收スルモノトス

二、押收セル敵産中國有又ハ公有動産及敵對行爲ニ使用セラレタル私有動産(敵側ニ依リ故意ニ破壊セラレタルモノヲ含ム)ハ之ヲ沒收スルモノトス

三、押收セル敵産ハ前項ニ依リ沒收スルモノノ外凡テ帝國ノ管理ニ附シタル上換價處分(名目價格ニ依ル)ニ依リ之ヲ帝國ニ歸屬セシムルモノトス

換價處分ニ依ル對價金ハ別途之ヲ保管ス

四、沒收又ハ歸屬財産ハ之ヲ帝國國有財産トシタル上更メテ國家又ハ其ノ他適當ナル運營主體ノ所有ニ移ス如ク處理スルモノトシ帝國カ世界ニ對シ大東亞戰爭ノ戰果ヲ永遠ニ確保スルニ相應セシムル如ク財政經濟的考慮ハ勿論國民志氣竝ニ創意ノ發揚持續ニ遺憾ナカラシメ以テ軍官民一體戰爭完遂ニ邁進セシムル如ク之ヲ決定

ス

之カ爲國民一般ノ所有スル國債ノ株式乘替等ノ如キ措置ニ就キ講究シ適當ナル方法ニ據リ戰果ノ均霑ヲ圖ルニ、差當リ敵産處理運營ニ關スル中央ニ於ケル企畫立案ヲ爲スタメ大東亞省ニ所要ノ委員會ヲ設ク之カ本格的處理機關ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

## 備 考

一、本件ノ處理ハ努メテ迅速ヲ期スルモノトシ之カ實施要領ハ別途之ヲ定ム

尙ホ本件ノ發表方法等ニ付テハ内外ノ情況ヲ睨合セ努メテ國際慣例ニ適合セシムル樣慎重ニ考慮スルモノトス

二、三、ニ關シ公有財産及新附ノ民ニ屬スルモノニ付テハ統治上ノ必要ニ基キ別ニ考慮スルモノトス

三、斷交國關係ノ財産ニ對スル措置ハ當該國ノ執ル態度ニ對應シ適宜決定スルモノトス

四、華僑ニ關シテハ華僑對策要綱ノ趣旨ニ依リ

(一) 占領地外ニ逃亡シ或ハ敵意ヲ有スルモノニ對シテハ敵産トシテ處理ス

(二) 其ノ他ノ者ハ新附ノ民ニ準ス

(付記)

説 明 書

大本亞戰爭後帝國ガ占領シタル英米蘭ノ領土ニ於ケル敵國又ハ敵國人財産中帝國ノ戰爭遂行上又ハ國防上現在及將來ニ亘リ之ヲ確保スルヲ要スルモノ尠カラズ。而モ大東亞戰爭ノ性格ハ戰爭完遂又ハ戦力培養上必要ニシテ效果的ナル措置ハ帝國ガ戰爭中自主的ニ之ヲ決定實施シ、戰爭遂行力ヲ強化シツツ戰爭ヲ完遂シ其ノ目的ヲ達成スルヲ要スヘシ

而シテ本件ハ努メテ國際慣例ニ準據シテ敵産ヲ處理シ帝國ニ歸屬セシメ國有財産トシタル上更メテ國家又ハ其ノ他適當ナル運營主体ノ所有ニ移ス如ク處理シ以テ帝國戦力ヲ培養シ竝ニ其ノ戦後ノ復活ヲ封止スルト共ニ敵ノ措置ニ依リ帝國側ノ蒙リタル帝國側ノ損害補償ノ擔保ノ保全ヲ期セントスルモノナリ

即チ詳言スレハ

第一、 占領地域ニ於ケル敵産ヲ實質的ニハ敵國ノ何百年間

ニ亘ル蓄積ヲ帝國ガ獲得シタルコトニシテ從ツテ制度的ニ之ヲ帝國國有財産トシテ編入シ帝國ノ蓄積資本ヲ充實スルヲ得ヘシ之ニ依リ帝國經濟力殊ニ財政力ヲ劃期的ニ充實シ公債ノ消化、及インフレーションノ先行不安感ヲ除去シ戰時經濟ノ充實及安定ニ資シ戰爭遂行力ニ寄與スル處大ナルベシ。

第三、 現在ノ軍管理委託經營ハ暫定措置ニシテ委託經營者ニ對シ特權ヲ既成事實トシテ與ヘタルモノニ非ザルコトハ不動ノ方針ナルモ此點ニ關シ國民一般ニ疑心ヲ抱キ居ルモノ尙ホ尠カラズ惹イテハ公正ナル占領地行政ヲ誤解セシムルト共ニ戰爭遂行ニ關スル國民關心ヲ稀薄ナラシムル怖無キニ非ザルヲ以テ、敵産ニ關シ國際慣例ニ準據シ且ツ國家總力ヲ最高ニ發揮スル様公正妥當ナル處理ヲ斷行スルコトハ戰爭遂行上、國民志氣昂揚ノ上ニ多大ノ效果ヲ所期シ得ベシ、殊ニカカル見地ヨリ公債ヲ以テ民營事業ニ移スヘキ企業ニ關シ投資ヲ爲サシムル如キ措置ヲモ考慮セントスルモノナリ。

第三、 敵産ヲ沒收又ハ換價處分ニ依リ帝國ニ歸屬セシメ國有財産トシタル上更メテ國家又ハ其ノ他適當ナル運營主

体ノ所有ニ移ス如ク處理スルモノナルカ此ノ場合帝國ガ  
英米經濟ニ對スル依存狀態ヲ脱却シ眞ニ自主的ナル戰時  
又ハ國防經濟ノ確立ヲ全カラシムル必要上國防上不可缺  
ノ資源竝ニ施設ハ確實ナル國家ノ掌握下ニ置クノ他眞ニ  
國家の見地ヨリ事業又ハ施設ノ性質、統治ノ段階及國民  
志氣昂揚等ノ諸點ヲ勘案シ適當ナル經營形態ヲ定メ、即  
チ國有、國有國營、國有民營、半官半民(國家資本ノ參  
加)或ハ民營等ノ經營形態ノ具體的條件ニ付之ヲ定メ右  
ニ基キ夫々ノ經營主体ニ公正ナル<sup>(二)原則</sup>價ヲ以テ處分シ夫々  
ノ創意ヲ發揚セシメ以テ戰時生産力ヲ暢達セシメントス  
斯クノ如クシテ占領地ニ於ケル敵產處理ハ財政力ノ強化、  
國民志氣ノ昂揚及生産力増大等ニ關シ帝國ノ戰爭遂行力  
強化ニ資スルトコロ多大ナルヘシ

而シテ敵產ヲ帝國財産ニ歸屬セシムル本措置ハ、内外  
ニ及ホス影響大ナルベク、從ツテ對外的ニハ努メテ本件  
ノ處理ガ國際慣例ニ適合スルモノナルコトヲ明カニシ無  
用ノ刺戟ヲ避クルト共ニ國內のニハ眞ノ戰爭體制確立ノ  
爲メ本件ノ效果ヲ最大限ニ發揮セシムル如ク措置スルト  
共ニ、又戰力強化ノ爲メ必要ナル各般ノ施策ヲ併行實施

スルヲ要スヘシ

尙ホ本件ヲ處理スルニ當ツテ注意スベキハ

第一、 本件ノ處理ハ現在南方地域ノ軍政ノ統治方式ヲ變  
更スルモノニ非ザルコト

第二、 發表ノ時期及方法等ニ付キ内外ノ情況ヲ睨ミ合セ  
殊ニ努メテ國際慣例ニ適合スル如ク慎重ニ考慮スルコ  
ト

第三、 泰、佛印竝ニ支那等ニ於ケルモノノ取扱ニ關シテ  
ハ夫々特別ノ政治的考慮ヲ拂フコト

第四、 本件ノ處理ハ必勝ノ信念ニ立チ戰爭遂行力ヲ強化  
スヘキ意思力ニ立脚スルモノナルガ故ニ帝國ノ全體戰  
力ヲ昂揚スヘキ國內體制ヲ確立スベキ各般ノ施策ヲ併  
行實施スルコト

第五、 本件處理ハ努メテ迅速ヲ期スルト共ニ實施要領ハ  
別途之ヲ定ム尙ホ本件ハ特ニ占領地ニ於ケル事業又ハ施  
設ノ經營形態ノ確定等ニ關シ各方面ノ利害關係ニ關係  
スル所大ナルニ鑑ミ具體的處理方針ハ政府部内ニ於テ  
極祕裡ニ決定スルコト

25

昭和17年10月15日

在北京土田(豊)参事官より  
谷(正之)外務大臣宛(電報)

中国における敵国私有財産処理について

北京 10月15日後発  
本省 10月15日夜着

第九八二號(館長符號)

貴電合第一八八四號ニ關シ

本件敵産處理方針ニ於テハ支那等ニ於ケルモノノ取計ニ關シテハ特別ノ政治的考慮ヲ拂フコトトナリ居ル處敵産ノ處理カ我戰力培養ニ重大關係アルハ勿論ノ儀ナルカ一方敵産就中敵國私有財産ノ處理如何ハ今次戰爭ノ局ヲ結フニ當リ重要ナル意義ヲ有スルノミナラス對支那側關係就中假ニ支那カ參戰スル場合ヲ豫想スルニ種々考慮ヲ要スルモノアリト存セラルルニ付テハ支那ニ於ケル敵産ノ處理運營ニ付テハ以上ノ諸點篤ト御含置キ相成様致度爲念  
南大、上海へ轉電セリ

26

昭和17年11月16日

大本營政府連絡會議決定



「在支敵産ノ處理運營要領」

●在支敵産ノ處理運營要領

第一方 針

一、在支敵産ハ昭和十七年九月二十八日連絡會議決定「帝國軍ノ作戰地域内ニ於ケル敵國及敵國人財産ノ處理運營ニ關スル件」及昭和十七年十月二十九日連絡會議決定「國民政府ノ參戰竝ニ之ニ伴フ對支措置ニ關スル件」ニ準據シ大東亞經營上帝國ニ於テ之カ取得ヲ必要トスルモノハ要價擔保保全ノ爲速カニ之ヲ帝國ニ歸屬セシムルノ處置ヲ完了シテ運營ニ移シ爾餘ノ敵産ハ之ヲ國民政府ニ移管シ同政府ヲシテ積極的ニ帝國ノ大東亞戰爭完遂ニ協力スルノ實ヲ舉ケシム、移管ノ時期ハ別ニ之ヲ定ム

二、本要領實行ニ當リテハ國民政府參戰ニ伴フ政治的效果特ニ民心ノ把握治安ノ維持ニ惡影響ヲ及ボササル如ク考慮スルモノトス

第二要 領

一、在支敵産トハ敵國、敵國人又ハ敵國系法人ニ屬スル作戰地域内ニ於ケル積極財産トス

二、帝國ニ歸屬セシムヘキ敵産ハ概ネ左記(之ニ附隨スル權

益ヲ含ム)ノ内大東亞經營上帝國カ絶對把握シアルヲ要スルモノニ限定シ個々ノモノニ付中央ニ於テ決定スルモノトス

(一)埠頭、倉庫施設

(二)造船施設

(三)石油業關係施設

(四)交通、通信施設

(五)開鑛炭礦及英米煙草

(六)其ノ他特ニ必要トスルモノ

三、爾餘ノ敵産ニシテ帝國軍ノ既ニ管理シアルモノハ之ヲ國民政府ニ移管シ必要ニ應シ爾後ノ處理運營等ニ關シ條件、希望等ヲ附スルコトアルモノトス

四、未タ押收シアラサル敵産ニ就テハ帝國ニ歸屬セシムヘキモノハ速ニ軍ニ於テ押收管理シ他ハ國民政府ノ施策ニ委スルモノトス

五、第三項及第四項ニ基キ國民政府ニ移管スル敵産中軍事上特ニ必要ナルモノハ國民政府ト協議ノ上引續キ帝國軍ニ於テ使用管理スルモノトス

六、帝國ニ歸屬セシムヘキ敵産ハ左記ニ依リ處理スルモノト

ス

(一)沒收シタル敵産ハ戰利品處理規程並海戰法規ニ依ルモノヲ除キ特殊財産特別會計(假稱)ニ歸屬セシム

(二)押收敵産ハ沒收スルモノヲ除キ名目價格ニ依リ速力ニ換價處分ヲナシ特殊財産特別會計ニ歸屬セシム

(三)特殊財産特別會計ノ設置ニ至ル迄適宜ノ方法ニ依リ帝國ヘノ歸屬ヲ明確ナラシムル措置ヲ講ス

七、帝國ニ歸屬シタル財産ノ處理運營ハ左記ニ依リ大東亞省ニ設置セラルヘキ委員會ノ議ヲ經テ之ヲ實施ニ移スモノトス

(一)國有又ハ國有國營トナスヲ要スルモノヲ除キ公共事業並ニ重要産業ニアリテハ原則トシテ政府出資ト爲シ他ハ民間ヘノ委託經營、貸付、賣却等ヲ爲スモノトス

(二)出資及賣却先等ノ選定ニ當リテハ左記各項ニ留意スルモノトス

(イ)大東亞全域ニ亘リ關聯性ヲ有スルコト大ナルモノアルニ付テハ他地域トノ關係ヲ考慮スルコト

(ロ)既設國策會社又ハ團體ノ事業ニ付テハ之等會社團體トノ關聯ヲ考慮シ成ル可ク一體の運營ヲナシ得ル如

ク配意スルコト

(ハ)實狀ニ即スル適材主義ニ依ルコト

(ニ)出資及賣却價格ハ原則トシテ時價ニ依リ算定シタル價格ヲ基準トシ諸般ノ事情ヲ考慮ノ上適當決定スルモノトス

トス

(四)政治的考慮ニ基キ支那側ニ對シ出資及賣却等ヲナス場合ハ特ニ我方把握ノ要ト支那側ノ育成強化トヲ勘考シ措置ノ適正ヲ期スルモノトス

政府出資ノ結果日支合辦事業ニ於ケル出資割合ニ變更ヲ生スルモノノ調整ハ將來ノ措置ニ俟ツモノトス

ハ、敵産ハ概ネ昭和十七年十二月末迄ニ帝國ニ歸屬セシムルモノトシ爾後速ニ之カ處理ヲ完了スルモノトス

附記

一、本件處理ニ併行シ目下軍ニ於テ管理中ナル重慶系財産ハ速カニ之カ管理ヲ解除シ軍事上必要ナルモノヲ除キ凡テ之ヲ支那側ニ返還スル如ク措置スルモノトス

二、銀行、信託會社又ハ保險會社ニ屬スル財産ニ付テハ清算ノ措置ヲ續行シ殘餘財産特ニ不動産ニ付本措置ヲ適用スルモノトス

三、敵國關係借款ノ處理ニ關シテハ別途考究スルモノトス  
四、帝國ニ歸屬セル財産中軍事上特ニ必要トスルモノハ關係機關協議ノ上引續キ軍ニ於テ使用スルモノトス

~~~~~

27

昭和17年11月20日

谷外務大臣より
在本邦ゴルジュエイス公使宛

英国財産への敵産管理法適用問題に関する英
国政府照会への回答

付記

昭和十七年七月九日付在本邦ゴルジュエイス公

使より東郷外務大臣宛公信

右英国政府照会

通一普通第四七三號

以書翰啓上致候陳者七月九日附貴信ヲ以テ御照會相成リタル日本及日本軍占領地域ニ在ル英國人及其財産ノ取扱ニ關シ本大臣ハ左ノ通り閣下ニ對シ通報スルノ光榮ヲ有シ候
一、日本ノ敵産管理法規ハ日本ニ在ル敵國財産ニ對シテノミ適用アリ中華民國及南方ノ日本軍占領地域ニ在ルモノニハ適用ナシ

二、日本ノ敵産管理法規ノ適用振リニ關シテハ敵産ノ散逸ヲ

防止シ之ヲ保存スルタメ大要左ノ如キ措置ヲ採リ居レリ
(イ) 敵産ニシテ保管スル者ナキモノ或ハ保管者アルモ其ノ者ニ依ル保管ヲ不適當ト認ムルモノニ對シ大藏大臣ハ敵産管理人ヲ選任ス

(ロ) 敵産管理人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ管理財産ノ管理ニ當ル義務アリ

(ハ) 在外敵國人ノ日本内ニ於テ有スル債權ニ付テモ債務者ヲシテ其ノ履行ヲ爲サシメ當該財産ハ別途管理シ居レリ

(ニ) 日本ニ於ケル英國側銀行ノ各支店ハ目下清算中ナル處其ノ資産ハ敵國人ニ非サル債權者及敵國人ト雖モ本邦ニ在留スルモノニ對シ支拂ハレ其ノ殘額ハ別途保存セラルコトナリ居レリ

(ホ) 在留英國人ニ依ル日本側銀行ヨリノ預金引出ニ付キテハ外國人關係取引取締規則ノ許可ヲ要スルモ必要ナル生活費ノ引出ハ全テ許可シ居レリ

三、英國政府ハ日本及日本軍占領地域ニ在ル英國人及其財産ニ對シ英本國ニ在ル日本國民及其財産ニ對スル英國政府ノ取扱ト同様ノ取扱ヲ希望シ英國側ノ取扱振ヲ掲記シ居

ル處帝國政府ノ得タル情報ニ依レハ英國側ノ取扱ハ其ノ主張ト實際ニ甚シキ懸隔アリト認メラル即チ

(イ) 英本國ニ於ケル正金銀行ノ資産ハ英本國ニ於ケル在留日本國民ニシテ抑留セラレタルモノニ支拂ハレ居ラス

(ロ) 在印度日本商社ハ支拂可能又ハ經營繼續可能ナルニモ拘ラス殆ト清算セラレタリ

(ハ) 英帝國(自治領ヲ含ム)ヲ通シ英國側ノ任命セル敵産管理人ハ日本側ノ財産ニ對シ保存措置ヲ講シ居ラス例ヘハ

(1) 印度及濠洲ニ於テ日本國民ノ財産ハ不當ニ低廉ナル價格ヲ以テ競賣ニ付セラレタルノミナラス管理ニ當レル掛員ノ不法ナル所有ニ歸シタルモノ尠カラス
(2) 緬甸及馬來ニ於ケル日本國民ノ財産ハ盡ク押收乃至掠奪ヲ蒙レリ

敘上ノ諸點ニ鑑ミ帝國政府ハ前記英國政府ノ希望ヲ容ルルニ躊躇スル次第ニ有之實際ノ取扱振ニ付尙詳細通報ヲ希望致候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬 具

昭和十七年十一月二十日

外務大臣 谷 正之

瑞西國特命全權公使

「カミーユ、ゴルジェ」閣下

(付記)

昭和十七年七月九日附東郷外務大臣宛在京瑞西公使發公文(假譯)

以書翰啓上致候陳者曩ニ三月二十六日附通一普通第一〇六號貴信ヲ以テ御通報相成タル日本ニ於ケル敵產管理法諸規則ノ原文ニ關シ左記事項ニ付茲ニ閣下ニ向ツテ照會スルノ光榮ヲ有シ候

英國政府ニ於テハ當該法規カ日本ノ占領地域ニ於ケル英國人財産ニモ均シク適用セラルルモノナリヤ或ハ別個ノ規則カ規定セラレタルモノナリヤヲ承知致度併セテ實際上同敵產管理法規ノ適用振リニ關シ承知致度次第ニ有之候

右ニ關シ英國政府カ瑞西政府ニ對スル通報ニ依レハ敵產ニ關スル同國ノ政策ハ當該財産カ占領地域タル伊領「ソマリールランド」ニアルカ若クハ英本國ニ在ルトヲ問ハスモ平和克

服ノ曉ニ於ケル協定ヲ豫想シテ之ニ對スル保存的措置ヲ執ルニ在ル趣ニテ且英國政府ハ同様ノ政策カ全英帝國ニモ實施セラレアルコトヲ認メ之カ爲ニ敵產管理人ヲ各地域ニ於テ任命シタル次第ニ有之候

英本國ニ付テハ日本側ニ支拂ハルヘキ金額ハ之ヲ管理人ニ拂込ムコトヲ要シ本管理人ハ此等ノ金額及財産ノ保存ヲ確保スルニ必要ナル措置ヲ執ル爲夫等人々ノ爲ニ其ノ抑留財産ニ就キ各種ノ情報ヲ入手スヘキモノト成リ居ル次第ニ有之候斯クテ英國政府ハ支拂可能ニシテ且活動ヲ繼續シ得ヘキ敵性商社ヲ清算スルコトヲ回避シ支拂不能又ハ經營ノ繼續不可能ノ事業ノ資産ハ概ネ管理人ニ委讓セラルル次第ニ有之候尤モ右原則ニ對スル例外トシテ「對敵取引禁止令」第三部ニ規定セラルル所ニ依リ英本國ニ於ケル日本側銀行ノ各支店ハ清算セラレタル處其ノ際先ツ右各支店ノ資産ハ敵國人ニ非サル債權者(英本國ニ於ケル在留日本人ヲ含ム)ニ交付セラレ、其殘額ハ敵產債權決議部ノ手許ニ保存セラルルコトニ致居リ在留日本人ニ依ル英本國銀行ヨリノ預金引出ニ付キテハ何等ノ制限モ無之右ハ英本國在留ノ敵國人ハ本法令ノ所謂敵國人ト認メ居ラサルニ由ルタメニ有之候

就テハ英國政府ノ希望スル本件ニ關シ何分ノ御回報相成度
尙敵産管理法規ノ適用ニ關シ日本及同占領地域ニ在ル英國
民及同財産ニ對シ英本國ニ在ル日本國民及同財産ニ適用セ
ラルルモノト同様ノ取扱ヒヲ與ヘ得ルヤ否ヤニ付併セ御回
報相煩度此段御依頼申進候

本使ハ閣下ニ向ツテ茲ニ累ネテ敬意ヲ表シ候 敬 具



28

昭和17年12月21日 谷外務大臣より
在本邦ゴルジュエスイス公使宛

日本及び日本占領地における敵産管理法の適

用振りに關する米國政府照会への回答

付 記 昭和十七年八月五日付在本邦ゴルジュエスイス公

使より東郷外務大臣宛公信

右米國政府照会

通一普通第四九〇號

以書翰啓上致候陳者八月五日附書翰ヲ以テ御通報相成リタ
ル日本及日本軍占領地域ニ於ケル米國人商社及銀行ノ清算
ニ對スル米國政府ノ申出ニ關シ本大臣ハ左ノ通り閣下ニ對
シ通報スルノ光榮ヲ有シ候

一、本件ニ關シ米國政府ノ瑞西政府ニ對スル情報トシテ閣下
ヨリ通報相成リタル米國ニ於ケル日本國民ノ事業ノ清算
ニ關スル情報ハ米國當局カ現實ニ日本國民ノ銀行及商社
ニ對シテ取りタル措置振ト大イニ差異アルモノト認メラ
レ候即チ日米交換船ニヨリ其職員ヲ歸國セシメ得タル銀
行及商社ニ付調査セル處ニ依レハ別添附屬書ノ通りニテ
日本國民ノ銀行商社ノ邦人職員カ其事業ノ清算狀況ヲ知
リ又ハ右ニ關スル情報ヲ得タルハ多數中僅カニ數箇ノ例
ヲ存スルニ過キス多クハ如何ナル形式ヲ以テ清算カ命セ
ラレ且開始セラレタルカヲスラ知悉シ居ラサル趣ニ有之
候

二、右ノ如ク米國政府ノ通報カ事實ト相反スルノミナラス在
米本邦人特ニ米國西海岸地方ヨリ強制退去セシメラレタ
ル本邦人ノ財産ノ取扱當ヲ失スルモノ多々アルニ鑑ミ相
互主義ニ基キ上海ニ於ケル米國銀行及商社ノ關係者ヲシ
テ其ノ帳簿及記錄竝ニ其他ノ財産ヲ照合檢閲シ以テ目錄
ヲ作成シ其ノ事業ヲ明瞭且完全ニ整理シ事業調ヲ作成セ
シムルコトヲ日本當局ニ於テ許可スヘキ旨ノ米國政府ノ
要求ハ帝國政府ニ於テ容認スルノ用意無之候

三、帝國政府ハ敵國事業及財産ノ管理及清算ニ當リテハ右ニ關スル規定ニ則リ處理シ居ル處米國人ノ清算事務ヘノ參與如何ハ米國ニ於ケル實際ノ取扱振ヲモ勘考シ個々ノ場合ニ付テ檢討可致候

右通報旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十七年十二月二十一日

外務大臣 谷 正之

瑞西國特命全權公使

「カミーユ、ゴルジェ」閣下

(付記)

昭和十七年八月五日附東郷外務大臣宛在京瑞西國公使

發公文(假譯)

以書翰致啓上候陳者曩ニ七月九日附書翰ヲ以テ本使ハ閣下ニ對シ英國政府カ日本及占領地域ニ於ケル敵産管理法規ノ適用振ニ關シ承知致度キ旨ヲ通報スルノ光榮ヲ有シ候
本件ニ關シ閣下ノ好意的注意ヲ喚起シ更ニ冒頭拙信ニ付キ米國政府モ亦本件ニ關シ回報ヲ得度キ希望ヲ有スル旨ヲ茲

ニ附言スル次第ニ御座候

米國政府ノ本國政府ニ對スル情報ニ依レハ米國ニ於ケル日本國民及日本代表者ハ其ノ事業ヲ清算スルコトヲ得ル次第ニシテ米國當局ハ單ニ右ニ關シ監督權ヲ有スルニ止マリ、從ツテ日本人ハ自己ノ書類ヲ保存シ、債權ヲ實行シ竝ニ債務ヲ履行スルコトヲ許可セラレ居ル次第ニ御座候唯日本側銀行ニ對シテハ唯一ノ例外的措置カ執ラレ即チ紐育及加州ニ於テハ州銀行當局ニ依リ又布哇及華盛頓ニ於テハ聯邦銀行當局ニ依リ清算セラルルモ斯カル場合ニ於テモ日本人ハ帳簿記錄等ヲ參照シ得ル次第ニ御座候然ルニ上海ニ於ケル日本側當局ハ敵國ノ主要銀行及大商社ノ清算ヲ命シ若クハ敵産管理人ニ對シ報告ノ提出又ハ收益ノ拂込ヲモ爲スコトナクシテ自ラ若干ノ大企業ノ經營ヲ續行シ居ル由ニ有之、加之上海ニ於テ清算セラレタル企業ノ關係者ニトリテハ當該會社ノ帳簿記錄ヲ參照スルハ極メテ困難ナル趣ニ有之候
仍テ米國政府ハ日本政府ニ對シ米國人カ自己ノ企業ヲ日本當局ノ單ナル監督ノ下ニ清算カ許サレストスルモ尠クトモ彼等ヲシテ其ノ帳簿及記錄竝ニ其ノ他ノ財産ヲ照會檢閲セシメ以テ目錄ヲ作成シ其ノ事業ヲ明瞭且完全ニ整理シ且彼

等ノ債務及一般事業調ヘヲ作成セシムルコトヲ許可シ得ル
ノ用意アリヤ否ヤ申出ノ次第有之候

本件米國政府ノ申出ニ對シ何分ノ儀御回報相成ルト共ニ敵
產管理法規ノ適用ニ當リ日本政府ニ於テ日本及占領地域ニ
於ケル米國民及財産ニ對シ米國ニ於ケル日本國民及財産ニ
適用セラルルモノト同一ノ待遇附與方ニ關スル承諾ノ可否
ニ付御回示相煩度此段御依頼申進候

本件回答ニ對シ豫メ謝意ヲ表明シ旁々本使ハ茲ニ重ネテ貴
大臣ニ向ツテ深甚ナル敬意ヲ表シ候

敬 具

~~~~~